



小学校高学年 ～高校生向け 年 組

(246)

県内・今年

交通死急増 既にA人

目立つ 県警「異常事態」
交差点事故

今年に入り、県内で交通死亡事故が急増している。22日現在、11件の交通死亡事故が発生し11人が死亡。2件2人だった前年同期に比べ9件9人増加した。県警が掲げる年間抑止目標60人を大幅に上回るペースで推移している。死亡事故は9市町で発生。薄暮時から朝方にかけて、交差点での事故が目立つ。死者の7割を65歳以上の高齢者が占める。県交通安全対策協議会は今月2度の交通死亡事故の全県警報を発令。県警は現状を「異常事態」とし、取り締まりや広報啓発を強化し、抑止に注力している。

(藤井達哉、田崎智亮、藤田賢)

取り締まり・啓発強化

県警交通企画課によると、1件目の事故は3日夕、真岡市の県道で発生した。軽乗用車が電柱に衝突して用水堀に転落、運転女性(67)が死亡した。さくら市の県道では6日朝、歩行中の男性(86)が軽乗用車にはねられた。8日には栃木、佐野の両市で計2件の死亡事故が起き、16日から

同協議会は9日、今年初めて県内全域に交通死亡事

故多発警報を発令。しかし事故発生が止まらず期間を延長した。19日には2回目となる全県警報を出した。こうした事態を受け、同協議会長の福田富一知事は23日の記者会見で「尊い命が犠牲となる異常事態」と指摘。夜間運転時のハイビーム使用や自転車乗車時の

ヘルメット着用などを求め「県民一人一人が一層の交通ルール順守などに努めてほしい」と呼びかけた。また県内の警察署別で最多3件の死亡事故が起きた真岡署は同日、緊急対策会議を開催。関係機関が危機意識の共有を図った。

県内の交通死者は2023、24年と2年連続で増加。同年は重傷者数が過去5年間で最多となるなど事故の多発傾向が続く。県警は交差点での交通取り締まりや夜間検問を強化し、運転者に緊張感を持った安全運転を呼びかける。歩行者と自転車の側には夜間、反射材などの着用を促している。

2024年1月24日付・下野新聞1面

記事は加工しています

設 問

【1】見出し「A」には数字が入ります。記事をよく読んで、答えましょう。

【2】死亡事故はいくつの市町で発生していますか。数字で答えましょう。

【3】今年に入ってから事故のうち、半数はどこで発生していますか。

【4】知事は「県民一人一人が一層の交通ルール順守などに努めてほしい」と呼びかけていますが、具体的な行動としてどのようなことが挙げられますか。記事をよく読んで答えましょう。

【5】県警は、運転者と歩行者・自転車に対し、どのようなことを呼びかけていますか。〈運転者〉〈歩行者・自転車〉と分けて整理しましょう。

出題・監修は県高校教育研究会地歴公民科部会・木村優里
佐野東高教諭